

初級者が遭遇した問題と言語管理過程を解明してコース改善に反映する試み —インタビューからの示唆を生かして—

国際大学
竹内明弘

要旨

初級学習者が日本語接触場面において、どのような問題に遭遇し、その問題に対してどのような言語管理を試みたのかをインタビューによって解明し、そこから得られた知見をいかにコース設計に反映すべきかについて考察する。特に食材選択と交通機関の利用に関する 2 つのリテラシーに限定して、基礎コースの改善策を探る。

キーワード：言語管理理論、接触場面、インタビュー、リテラシー

0. はじめに

竹内（2011）では完全英語公用語環境の大学において「日本語に触れられていればいい」という程度の動機を持つ学習者が「習得も進み、役にも立った」と実感できるコース作りを目指した実践の報告をした。この取り組みにおいては、学習者が遭遇した言語管理上の問題の収集方法が書面による報告に大きく依拠していたため、問題の発生した詳細な状況や学習者の視点と言語管理過程からの知見や示唆などのいわば問題解決の核心に迫りきれていなかった。その結果コースで扱う語彙、文法、表現や社会文化的リテラシーなどの内容が既成の教科書の一部の使用にとどまるという一般性から抜け出せず、そのシラバスでは個々の学習者が現実に経験し得る具体的な問題に今一つ取り組めていないという反省が残った。

そこで、最終的に学習者を集団として扱うコースのシラバスであっても、個々の学習者が遭遇した具体的¹な問題についてインタビューによる問題の詳細な把握と言語管理過程を解明することが更なるコース改善のための示唆を得る手段だと筆者は考えて、これを実行した。本研究では調査とインタビューで得られた知見から、食材選びのリテラシーと、もう一つは交通機関利用のリテラシーの 2 点に限定して基礎コースのシラバスの改善策を論じる。

1. 先行研究

¹ Neustupý (1995) は「言語管理の問題は言語政策決定のような抽象的かつマクロなレベルではなく、具体的な個人の談話というマイクロレベルから出発すべきである」と言っている。

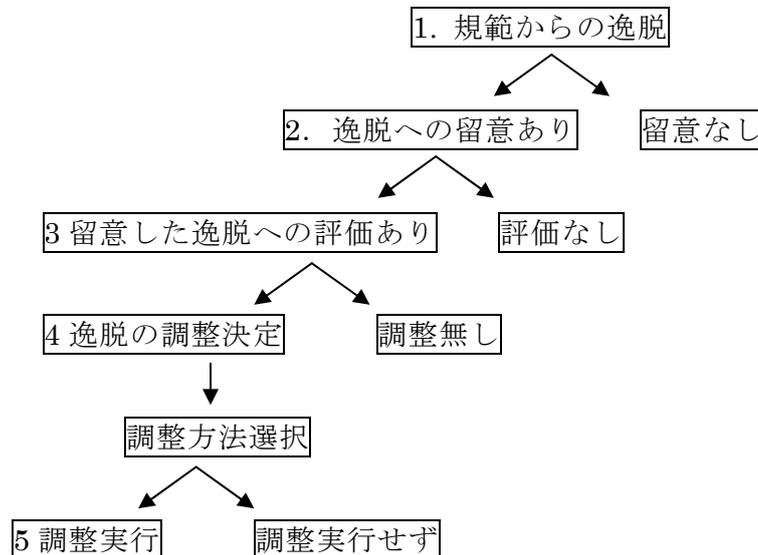
加藤ら（2002）は留学生 19 名に、インタビューを行い、学期が進むにつれて、接触場面の回数が増えること、言語管理上の問題が学内から学外に広がっていくこと、参加者や問題の内容が多様化することなどの様子をとらえている。竹内（2011）では、学習者の遭遇した問題とその解決策を反映したシラバスが学生には好評だったことを報告している。

2. 言語管理のプロセスとデータ収集・分析方法

2.1. 言語管理理論

ネウストプニー（1995）の「言語管理理論」では、接触場面における問題には a) 言語的(以下 LG)問題、b) 社会言語的(以下 SL)問題、c) 社会文化的(以下 SC)問題の 3 種類があり、問題の発生とその対処プロセスは図 1 のようなフローを辿ると説明されている。接触場面についての内省的分析に有効な理論であり、この枠組みを分析に活用する。

(図 1)



加藤（2010）より

問題が起こる前に予め調整方法を準備、実行することを事前管理、問題が起きている最中に調整をすることを事中管理、問題が起こった後に後追いで調整することを事後管理と呼ぶ。

留学生が遭遇する問題において、LG, SL, SC 的側面を分けて考えてみると、問題の所存と性質が明らかになって、解決に有効である。ネウストプニーによる「外国人問題」に関わってくる 3 つの側面の特徴を簡単に示す。

LG：語彙、統語、構文、音韻、文字表記などの言語面

SL：文法、発音などの LG 面は正確だが、語用の適切さが問題となるような言語行動

SC：例えば戦争、貿易、車の運転、電車の乗り方、買い物、スポーツなどの実質行動。

J.V.ネウストプニー（1982）より

3. 報告収集とインタビュー調査

学生には 2012 年冬学期開始直後にそれ以前に遭遇した問題を、同年春学期開始直後にそれ以前に遭遇した問題を書面²で報告させて、同年 6 月上旬に全件について口頭でインタビュー³を行い、録音した。調査協力者の数と件数の一覧表を表 1 に示す。

T1、T2 は問題の報告を収集した時を表し、それぞれ 2012 年冬学期開始直後と同年春学期開始直後である。

(表 1)

収集時期	報告提出人数	報告された問題の件数
T1: 2012 基礎 ⁴ Ⅱ	9 名	9 件
T2: 2012 基礎Ⅲ	10 名	10 件

調査協力者のプロフィールを表 2 に示す。日本語学習歴については、T1 までに履修された科目を T1 の右に、T1 から T2 の間に履修された科目を T2 の右に記した。

インタビューは問題の不明点の確認や事前、事中、事後についてどのような言語管理を行ったかについての質問を中心に行われた。

(表 2)

仮名	出身国	話せる言語を含む言語能力／日本語学習歴
IDN1	印尼	印尼語、英語／ T1: 来日前 2 か月の集中講座+基礎 I T2: 基礎 II
IDN2	印尼	印尼語、英語／ T1: 来日前 2 か月の集中講座+基礎 I T2: 基礎 II
IDN3	印尼	印尼語、英語／ T1: 来日前 2 か月の集中講座 T2: T1 と同じ (基礎 II は履修せず)
IDN4	印尼	印尼語、英語／ T1: 来日前 2 か月の集中講座+基礎 I T2: 基礎 II
IDN5	印尼	印尼語、英語／ T1: 来日前 2 か月の集中講座+基礎 I T2: 基礎 II
IDN6	印尼	印尼語、英語／

² 報告は日英どちらでも可とし、結果は英語が圧倒的に多かった。

³ インタビューは英語で行われた。

⁴ 初級は基礎のほぼ 2 倍の進度をとるコースで、学習者を中級に繋げるように設計されている。初級は一学年で初級教科書「げんき」の文法会話編を 2 巻とも、基礎は 1 巻のみ扱う。

		T1: 来日前 2 か月の集中講座+基礎 I T2: 基礎 II
MON	モンゴル	モンゴル語、英語/ T1: 来日後 3 日間集中コース+基礎 I 半分履修 T2: 基礎 II
CAM	カンボジア	カンボジア語、英語/ T1: 来日後 3 日間日本語集中コース+初級 I T2: 基礎 II
TKM	トルクメン	露語、トルクメン語、英語、トルコ語/ T1: 基礎 I T2: 基礎 II
THA	タイ	タイ語、英語/ T1: 来日前 1 か月週 2 日+初級 I ⁵ T2: 基礎 II

報告された問題をテーマ別に分類して、件数を降順に並べたものを表 3 に示す。

(表 3)

	テーマ(「～の日本語」)別分類	件数	「げんき」の関連箇所 (「 」は課の終わりのコラム)
1	交通(鉄道、バス、駅、タクシー)	5	10 課「駅で」
2	飲食店、食材	5	2 課
3	買い物(実店舗、オンライン)	3	2 課、5 課「郵便局で/写真屋で」
4	各種サービス契約・加入・支払い トラブル・クレーム	2	20 課
5	宅配、荷物を送る	2	
6	一般的な会話	1	
7	身だしなみ(理容、化粧品購入)	1	17 課「床屋/美容院で」
8	道をたずねる時	1	6 課「道を聞く/教える」
9	銀行(ATM)、送金、	1	13 課「銀行で」
10	レンタルサービス	1	

この表は竹内(2011)の分類表に基づいたものであるが、1と2のテーマの件数が多い⁶ので、この2点のリテラシーについてインタビューが示唆するものを考えていく

3.1. インタビューの結果

⁵ 秋に初級 I を履修して、基礎 II に編入した。

⁶ 竹内(2011)でも件数の多さで、交通、買い物、飲食店が上位 3 位を占めている。

以下に学生からの報告で欠けていたり、あいまいだった部分をインタビューで確認して、全体として筋の通る物語にしたものを「問題の概要」とし、インタビューで述べられた学習者の意識や言語管理過程を「インタビューで明らかになったこと」として記述する。調査者の考えは斜体で記し、コース設計への示唆になると考えられる箇所には下線を引いた。

3.1.1. 飲食店やスーパーでの食材選びに関する事柄

MON のケース

T2 における問題の概要： 全く日本語が話せないモンゴル人と東京で飲食店に入った。メニューに写真がなく、書いてある食べ物が何かわからなかった。知っていたうどんを注文した。別の機会に友人とスキー場にいった。友人は（基礎日本語1履修経験有）その食堂には何度も行ったことがある。友人の提案で食べたいものが食べられた。

インタビューで明らかになったこと： どちらのケースも事前に特に準備はしなかった。うどんを注文したのは事中管理が行われたことを示している。スキー場の飲食店では一人だったら注文できなかったと思う。他者管理を当てにしてスキー場に行ったことが事前管理と言えそうである。

THA のケース

T1 における問題の概要： 冬休みに大阪、伊丹を旅行した時、日本語で道を尋ねる際、限られた表現しか使えないし、「みぎ、ひだり」くらいしか理解できなかったので困難を感じた。また飲食店ではメニューの写真を見て注文した。

インタビューで明らかになったこと：飲食店のメニューの漢字は写真がない場合は、他になにも頼るべきものがないのでお手上げ。

T2 における問題の概要： 春休みに初級Ⅲ履修のタイ人の友人と六日町の飲み屋に飲みに行った。勘定をする段になって伝票を見ると、頼んでもいない着きだしに対して請求されていて、納得がいかなかったが、そのまま料金を払い店を出た。

インタビューで明らかになったこと： 伝票を見ると、突出し一人につき 800 円が請求してあり、しかも頼んでもいないので戸惑ったが、それがこの店のやり方なのだろうと思って、質問はせずにそのまま払った。実は東京の飲み屋でも同じことがあったのだが、タイではこのようなことがないので、その違いに戸惑った。この問題は特に大きいものではない。クラスでは日本の飲み屋で飲むときは突出しに科料されることを SC 知識として伝えるといい。また殆どの地元の飲食店には日本語のメニューしかないから、先輩からの情報の引き継ぎがあるといい。基

礎Ⅲで生活の漢字の紹介があったが、基礎Ⅱから始めてもいい。

TKM のケース

T1 における問題の概要： 秋学期の朝に売店のハンバーガーを買うときに、英語と日本語混じりの会話で店員からバーガーはビーフが入っていると聞き出した。自分はイスラム教徒なので、ハラルの牛肉なのか、豚肉は入っていないかを聞いて確認しかつたが、店員には英語のニュアンスは通じないし、自分は日本語ができないし、十分な確認がとれなかった。

インタビューで明らかになったこと： 事中管理として、ハラルの牛肉でなくても豚肉でさえなければいいという心構えであった。日本語で言ってみて、店員は分かって返事をしてくれたようだった。しかし自分としてはハラルかどうか、と豚肉じゃないのか、という2点を確認したくて言った日本語が正しいか自信がもてなかった。クラスで新学期が始まってあまり時間が経たないうちに、「ハラルかどうか」、「豚肉と豚肉に由来する副産物が一切入っていないか」、「ベジタリアンである」ことを伝える表現を練習したらいい。基礎日本語2後半でこの問題を扱ったから、基礎Ⅲの時点でこの問題は解決済み。

CAM のケース

T1 における問題の概要： 来日して三日間集中コース終了した後、スーパーに揚げ物油を買いに行ったが、表記が日本語なのでどれなのかが全く分からず、勘で黄色い液体の入ったボトルを購入。その黄色い液体で魚を揚げていると、魚が焦げついてしまったうえ、先輩からその液体が洗剤だったことを告げられた。日本では食品の表記は日本語で書いてあることを実感した。

インタビューで明らかになったこと： 買い物に行く前に事前の準備はしなかった。この事件以来、買い物をする前に友人に尋ねるようになり、今使っているもののラベルを注意深く見るようになった。クラスで実物の商品と表記を見せて説明したらいいのではないか。

IDN6 のケース

T2 における問題の概要： 六日町の飲食店（月一回ぐらいで今までに4回行ったことがある）で、メニューの中で豚肉が入っていない料理を知りたかった。店員は本人が英語で言ったことが分からなかった。結局メニューの写真を見て決めた。

インタビューで明らかになったこと： 店員に「豚肉だめです」と日本語で伝えら

れたが、店員からの返答はあまり分からなかったが、「さかな」と「えび」は聞き取れた。その後、店員に見せてもらった写真で注文した。飲食店に行く時は、日本語能力が自分と同じ程度のインドネシア人の友人とだけ行くことがほとんど。また、一度食べて、問題ないと思ったものだけ毎回注文した。東京にある日本のカレーチェーンに入って「豚肉がありますか」「豚肉じゃないです」「だめ」などと店員に伝えたところ、“This is no pork”と店員から英語の返答があった。クラスでの日本人との会話は役に立つと思う。できたら中級以上の学習者と日本語で会話するセッションがいいと思う。

3.1.2.交通機関利用に関係する事柄

IDN6 のケース

T1 における問題の概要： 冬休みに東京に行った。券売機の駅名には漢字しかなくて、自分は漢字が読めないから、駅内外での移動と電車の切符の購入が大変だった。

この問題を解決するために、東京の地図の英語版とアップルのアイフォンでグーグル検索エンジンを使用した。日本人に話しかけても、早口で何を言っているかわからない。この問題を解決するために、まず繰り返してもらい、それでもわからないときは謝って、「わかりません」というようにしていた。

インタビューで明らかになったこと： 東京では駅で英語の地図をもらうように注意していたが、英語版の地図を置いていない駅もあった。お台場に行くときに、英語で駅員に値段や切符の買い方を尋ねて、用が足りた。一般人に”Do you speak English?”と聞くと、“No”の返答が返ってきたので、事中管理で日本語に切り替えて、乗り換えするときどこに行ったらいいか尋ねたが、早口で分からなかった。クラスで漢字紹介の活動がもっとあってもいい。

THA のケース

T1 における問題の概要： 冬休みに大阪、伊丹を旅行した時、日本語で道を尋ねる際、限られた表現しか使えないし、「みぎ、ひだり」くらいしか理解できなかったので困難を感じた。

インタビューで明らかになったこと： 事前管理として、日本語ができない妹に行きたい飲食店の住所や行き方を探してもらいタイ語で教えてもらって、一緒に旅行した。

飲食店に行く時は、まず地図で確認し、それでわからないときに人に最初に日本語で話しかけて、次に英語で会話を続けた。相手の言う、みぎ、ひだり、は聞き

取れたが、「ラーメンのレストランどこですか」に対する返事が分からなかった。
行きたかったレストラン全部にはたどりつけなかった。漢字に関しては、電車に乗るなどの駅関係の移動には英語の地図があったので、駅名や路線名は問題にならなかつたが、提案として、道順を聞くアクティビティはできるだけ新学期早期にするといい。日本人からの返答の聞き取りに取り組む活動があるといい。

IDN1 のケース

T1 における問題の概要： 2011 年 12 月ごろ、長岡に友人と行って、帰る段になって浦佐に帰る電車にのるために何番線に行ったらいいか分からなかった。そこにいた日本人に英語話しかけたが、返事が理解できなかつた。次に駅員を見つけて「すみません」で会話を切り出して、後は英語で話しかけたが、日本語で返答され分からなかつた。英語で話してもだめだと思った時に、切符を見せることを思いついた。駅員に切符を見せると、番線を示してくれて、電車に乗れた。

インタビューで明らかになったこと： 事前管理として、インドネシアの先輩学生に電車の乗り方について聞いたり、本を読んだり、またいつも経験のある友人と一緒に行動するように心がけていた。事中管理として、英語使用をあきらめ、切符を見せるという実質行動に切り替えて目標達成。事後管理としては切符の買い方、電車はどの番線に乗るかを事前にインドネシアの経験豊富な友人に確かめるようになった。

IDN3 のケース

T2 における問題の概要： 冬休みに東京に行き、ほとんどの場合地下鉄で移動した。料金表示の地図は地名が漢字で書いてあって読めないのので、近くの人に英語で聞くが相手が英語を話せない。この問題を解決するため英語版の路線地図上で目的地位を示して、日本人に「チケットはいくらですか」と聞いた。金額を理解できて切符を買うことができた。

インタビューで明らかになったこと： 一たび路線地図の漢字の問題に遭遇した後、予想される切符購入の事前管理として、英語の路線地図を所持し、路線地図に日本語の「チケットはいくらですか」を組み合わせる方略を使った。券売機の上に掲げてある漢字のみの路線地図で現在いる駅は赤字で書いてあることは分かっていた。問題は券売機の上の地図と英語版の路線図は縮尺や図柄、比率が異なるので理解しにくかつた。どの番線に行けばいいのかもわかりにくかつたが、駅員に英語で、駅員は日本語で「3番」「5番」などというので、数字部分で番線を確認した。それでも日本語で何を言われているのか全部はわからないし、漢字も分か

らないし、言いたいことを自分の日本語能力（に落とし込んで表現することが）
できないという問題が残る。クラスの活動として、母語話者との会話クラスは有
用だと思う。交通機関に関するアクティビティがあれば会話クラスでできればい
いし、そこでたくさん話せたらいい。

IDN4 のケース

T2 における問題の概要： 春休みに IDN2, IDN5 らとタクシーで小出にある回転すしに行こうと、浦佐駅前のタクシー会社に行った。応対してくれた人が日本語で長々と何か説明してくれたが、分からなかった。次第に、回転すしなら小出まで行かなくても、もっと近くにあるという旨のことをいっているのだとわかってきた。

インタビューで明らかになったこと：友人二人にお前が一番日本語が上手だから交渉しろと言われた。

IDN4: タクシーがありますか。

受付: はい、あります。何人？

IDN4: **nine.** 大きいです。

受付: はい、はい、はい。ちょっと待ってください。

という会話の後、受付の人が大きいタクシーの中を示して、**Please wait over there.**と言われたので、運転手のすぐ後ろの席に座っていると、最初は日本語で長く説明されて分からなかったが、だんだんと簡単なことばや短い文で言ってくれたので、小出までいなくてももっと近くに回転すしがある旨のことを伝えたがっていることが分かった。もっと近いすしやのことは運転手のジェスチャーで分かった。実は小出ですしを食べて、そこでボーリングもしようとしており、運転手の言っているもっと近いところにある回転すしでは用が足りず、あくまで小出でなくてはならないということを言いたかった。IDN2 が「食べた後で、ボーリングします」と日本語で言って、運転手も事情を了解した。

日本語の会話では、キーワードが分かれば、全体として何が起きているのかわかるようになってきている。聞き取りは未だ難しいし、て形を例とする文法は難しいが、インドネシア人の集団で何かあるといつも自分が日本語の交渉の矢面に立たされることが多い。

日本語のアニメを見て、聞き取りを中心に勉強している。クラス活動にアニメを取り入れるのはいいかもしれないが、問題⁷もあると思っている。

⁷テレビで忍たま乱太郎を見ていて、忍者特有の文末表現の「ござるよ」を聞いて、日本

IDN5 のケース

T1 における問題の概要： 2011 年 12 月に自分と同じ日本語能力のインドネシア人の友人と長岡にいった。列車の時刻表と番線が分からなかった。

インタビューで明らかになったこと： 長岡に行ったことがある友だちにくっついていき、自分一人ではできないから、切符の払い方、乗る番線はことごとく友だちのするようにした。基礎Ⅲの現在でもそうしているし、一人で行くなら、もう一度交通機関、道順関係の日本語を覚えなおさなければならないだろうと思っている。

クラスは秋以降、旅行する機会はいつでもあるので、秋学期中に公共交通機関を利用するときの表現が使え、カタカナと漢字の標識が理解でき、アナウンスメントが聞き取れるような活動をしたらいいと思っている。リスク回避傾向が極めて強い学生だという印象を調査者は受けた。

4. インタビューが示唆するもの

インタビューの結果で普遍性がある、シラバスに反映する際に考慮すべきと思われる点を以下に列挙する。

- IND の頭文字を持つ学生は全て留学期間が約 9 か月⁸しかないこと。
- IND1~6 と TKM はイスラム教の教義に則った食材⁹を選ぶ必要があること。
- CAM は来日直後に文字が読めなくて食材選びの問題に遭遇していること。
- 学生寮が公共の交通機関に頼らなければならない立地条件にあること。

留学生はいつ食材選びと交通機関利用の必要に迫られるかわからない。実際に問題が起きた時期が来日直後 (CAM)、あるいは秋学期 (TKM) だった。学習者の LG 能力が上達するのを待ってから、該当の項目を導入していたのでは、習ったころには解決済み (TKM) だったり、在日期間も残り少なくなっていて、時宜を得られないという懸念がある。その結果として「過去これを知っていたら、役にたっただろうし、これから役に立つかもしれない」と学習者に評価されても、現実には解決につながっていない可能性が考えられる。

教師の側の問題も明らかになった。竹内 (2011) におけるシラバス策定は、教師の持っている「やはり LG 能力で学習者に問題を解決させてやるのが本流だから、未習の項目は学習者の LG 能力が最近接領域¹⁰に入ってから導入するべきである」という信念に基

人に使ったら、昔の言い方だから使うなと言われた。

⁸ 1 年目はインドネシアの大学で、2 年目を国際大学で修了するリンケージプログラムと呼ばれるスキームで、日本には 9 月末から 6 月終わりまで滞在する。

⁹ ニススイアカデミー (2005)

¹⁰ Vygotsky.L.S. (1978)

づくアプローチであり、このような信念の発想を転換すべきことをインタビューは示唆している。

以上のことからコース改善の方針としては次のようなものが考えられる。すなわち、学習者の LG 能力が最近接領域に入っていない来日直後でも、英語やローマ字表記を制限せずに日本語の LG 能力に頼らなくても済むような SC 的リテラシーに限定して養成を行い、次第に学習者の LG 能力が最近接領域に近づいたときに LG ならびに SL 的リテラシーについて再度扱う、というように一つのリテラシーがもつ LG, SL, SC 的側面の階層構造の中を行きつ戻りつして、螺旋的な進み方をする活動をシラバスに組み込むというものである。この方針をもとに、次節でシラバスに組み込む活動を考えていく。

4.1. 飲食店やスーパーでの食材やメニュー選びのリテラシー養成について

秋学期に実施できるものを中心に列挙していく中で、それ以降に導入や発展できるものも学期ごとに示す。

SC 活動：

- * イスラム教のハラールとハラムやベジタリアニズムなど、個々の学習者の食事に対する主義¹¹を簡単に日本語で記述した資料を配布し、飲食店や販売店で店員に見せて、理解してもらい、食材を選ぶときの補助とする。
- * 夕食時飲み屋で慣行となっているサービスに関する SC 知識¹²。

LG (SL) 活動：

- * (特定の食材) が食べられません／だめです／入っていますか。とそれに対する、員から期待される応答のヴァリエーションの導入。
て形を使ったロールプレイ (冬から)、可能形を使ったロールプレイ (春から)。
- * 飲食店のメニューの文字表記と実物の写真とのマッチング。
カタカナ語のメニュー (秋から)、漢字を含むメニュー (冬から)
- * 個々の学生が買いたいと思っている食材をブレインストーミングして、文字表記とパッケージデザインを示す。
- * 先輩を含む学習者と交流会やオンラインの意見交換掲示板などでメニューや、食材、飲食店の特徴や問題などの SC 的知識の共有。
- * 基本的な飲食店での店員とのインターアクションのための会話と数量表現の練習。

4.2 交通機関利用のリテラシー養成について

ここでも秋学期に実施できるものを中心に列挙していく中で、それ以降に導入や発展できるものも学期ごとに示す。

¹¹ ニッサイアカデミー (2005)

¹² つき出しは頼まなくても出てきて、科料されること。(THA による報告)

SC 活動

- * 図を使った地元の列車の路線系統を理解し、駅名の漢字にローマ字で読み方が書いてある路線図で目的地を設定して、電車賃を読み取る。自動券売機の写真で、路線を選び、切符を購入するシミュレーションを行う。路線系統と電光掲示板からどのプラットフォームに行くかを理解する。
- * 学内で同様の学習者と交流会やオンラインの意見交換掲示板などで電車、バス、タクシーなど交通機関を利用する時の問題などのSC的知識の共有。

LG (SL) 活動 :

- * 切符を買って列車に乗る SC 活動を行っている時、あるいは冬学期に、買った切符を見せて、「何番線ですか」あるいは「(目的地)は何番線ですか」で駅員にプラットフォームを確認する。数量表現の聞き取り練習。
- * タクシーを依頼するときの表現「タクシー、お願いします」をまず習得。
冬以降に「タクシー、(現在位置)に~台お願いします。(名前)です。」が電話でやりとりできるように、受付の人の表現も聞き取れるようにして、インターアクションができるようにする。

5. まとめ

本稿におけるシラバス改善のポイントは LG 能力が極めて限定されているゼロビギナーでも早期に SC 知識を使ってシミュレーションをすることで、できるだけ早期から問題解決に取り組もうとするところにある。食材選択と交通機関利用以外にも SC 知識を盛り込めるものがあるので、この点も今後考慮に入れてシラバス改善を行っていくつもりである。

参考文献

- 加藤好崇 (2010) 『異文化接触場面のインターアクション』 東海大学出版会
- 加藤・鹿嶋・阿曾村・芝 (2002) 「東海大学学部留学生日本語使用実態調査プロジェクト」
平成 14 年度第 12 回日本語教育学会研究集会 (仙台)
- 生活の漢字を考える会 (2009) 『新日本語 <生活の漢字> 漢字み~つけた』 アルク
- 竹内明弘 (2011) 「初級学生が遭遇した接触場面の問題を授業に生かす実践活動」
IUJ Working Papers, Vol.19,LP-19-1,<http://www.iuj.ac.jp/language/workingpapers/>
- 田中和美・吉岡慶子 (2005) 『日本語教育国別事情調査 ヨーロッパにおける
日本語教育と Common European Framework of Reference for languages 』
ヨーロッパ日本語教師会 国際交流基金

- ネウストプニー (1995) 『新しい日本語教育のために』 大修館書店
- ネウストプニー J.V. (1982) 『外国人とのコミュニケーション』 岩波新書
- ファン・サウクエン (2009) 「ヨーロッパにおける多言語主義と多言語使用者の言語管理」
言語管理研究会第 15 回定例研究会発表要旨
- 坂野、大野、坂根、品川 (1999) 初級日本語「げんき」 The Japan Times
- 村岡英裕 (1999) 『日本語教師の方法論』 凡人者
- ニッスイアカデミー (2005) 「食の禁忌」、『GLOBAL』 2005 年 3 月号 pp.1-3
<http://www.nissui.co.jp/academy/eating/02/index.html>
- Ellis, R.(1997) Second language Acquisition, Oxford University Press
- Fan, S.K. (2009) Language Planning or Language management:
Treatment of Problems for the Development of “Japanese in Context”
『異文化コミュニケーション研究』 第 21 号 神田外語大学
- Neustupý (1995) Nihongo kyoiku to gengokanri (TJFL and language management).
『阪大日本語研究』 7 pp.67-82
- Vygotsky.L.S.(1978) Mind in Society: Development of Higher Psychological Processes.
Cambridge,Mass.: Harvard University Press.
- Wood. D., Bruner, J.S. and Ross. G. (1976) “The role of tutoring in
problem solving” Journal of Child Psychology and Psychiatry 17: 89-100

付録 報告の概要とインタビューの全記録

MON のケース

T1 における問題の概要： 秋学期に携帯電話の契約をしてすぐに、携帯電話の使用料の銀行口座からの自動引き落としに問題がおきたが、店員に話をしにいて解決したとその時は思っていた。年が明けて、電話会社から手紙（新年の挨拶と思っていたが実際の内容は使用料のコンビニ決済を要求する内容）が重ねて来るのでおかしいと思い、契約した店に出向いて店員と話した。その結果、銀行と携帯契約時の本人の名前のカタカナ表記が異なっていたため、引き落としが機能しなかったことが判明。携帯の契約のカタカナ名の表記を訂正し、解決。

インタビューで明らかになったこと： 店員との会話は英語と日本語をまぜこぜにした。事後の管理として、カタカナで名前を書くときに注意するようになった。

T2 における問題の概要： 全く日本語が話せないモンゴル人と東京で飲食店に入った。メニューに写真がなく、書いてある食べ物が何かわからなかった。知っていたうどんを注文した。別の機会に友人とスキー場にいった。友人は（基礎日本語 1 履修経験有）その食堂には何度も行ったことがある。友人の提案で食べたい

ものが食べられた。

インタビューで明らかになったこと： どちらのケースも事前に特に準備はしなかった。うどんを注文したのは事中管理が行われたことを示している。スキー場の飲食店では一人だったら注文できなかったと思う。他者管理を当てにしてスキー場に行ったことが事前管理と言えそうである。

TKM のケース

T1 における問題の概要： 秋学期の朝に売店のハンバーガーを買うときに、英語と日本語混じりの会話で店員からバーガーはビーフが入っていると聞き出した。自分はイスラム教徒なので、ハラルの牛肉なのか、豚肉は入っていないかを聞いて確認しかつたが、店員には英語のニュアンスは通じないし、自分は日本語ができないし、十分な確認がとれなかった。

インタビューで明らかになったこと： 事中管理として、ハラルの牛肉でなくても豚肉でさえなければいいという心構えであった。日本語で言ってみて、店員は分かって返事をしてくれたようだった。しかし自分としてはハラルかどうか、と豚肉じゃないのか、という2点を確認したくて言った日本語が正しいか自信がもてなかった。クラスで新学期が始まってあまり時間が経たないうちに、「ハラルかどうか」、「豚肉と豚肉に由来する副産物が一切入っていないか」、「ベジタリアンである」ことを伝える表現を練習したらいい。基礎日本語2後半でこの問題を扱ったから、基礎日本語3の時点でこの問題は解決済み。

T2 における問題の概要： 冬学期の初めころ長岡のユニクロに行って、特に問題なく服が買えた。

インタビューで明らかになったこと： 服を試着して、「小さい」「大きい」と伝えて、ちょうどいいサイズの服が買えた。

CAM のケース

T1 における問題の概要： 来日して三日間集中日本語コース終了した後、スーパーに揚げ物油を買いに行ったが、表記が日本語なのでどれなのかが全く分からず、勘で黄色い液体の入ったボトルを購入。その黄色い液体で魚を揚げていると、魚が焦げついてしまったうえ、先輩からその液体が洗剤だったことを告げられた。日本では食品の表記は日本語で書いてあることを実感した。

インタビューで明らかになったこと： 買い物に行く前に事前の準備はしなかった。この事件以来、買い物をする前に友人に尋ねるようになり、今使っているものの

ラベルを注意深く見るようになった。クラスで実物の商品と表記を見せて説明したらいいのではないか。

T2 における問題の概要： 直前の春休みにアマゾンでデジタルカメラをオンラインで注文して宅配してもらうことにした。後日メールボックスに日本語の不在配達票が入っていた。読めなかったのでハウスキーパーに英語に直してもらい、希望する再配達の日時を宅配業者に電話で伝えてもらった。

インタビューで明らかになったこと： 日本語が読めないことと、電話で日本語を使って配達日時の希望を伝えられないことが問題だと思っている。アマゾンで注文するときも、アマゾンジャパンのHPを開き、グーグル翻訳を使って意味をくみ取り注文した。グーグル翻訳を使う以外の事前管理はない。この件があっから事後管理に特に変化はない。相変わらず商品の詳細を知りたくても電話で聞けないし、しても相手の言うことがわからないだろう。以前にも宅配で食品を注文したときも不在配達票をもらって、日本語で電話をしてみたことがあった。このときは宅配業者は「大丈夫大丈夫」といって、すぐにもってきてくれた。ハウスキーパーによる他者調整、宅配業者による相手側調整に依存している。

THA のケース

T1 における問題の概要： 冬休みに大阪、伊丹を旅行した時、日本語で道を尋ねる際、限られた表現しか使えないし、「みぎ、ひだり」くらいしか理解できなかったので困難を感じた。また飲食店ではメニューの写真を見て注文した。

インタビューで明らかになったこと： 事前管理として、日本語ができない妹に行きたい飲食店の住所や行き方を探してもらいタイ語で教えてもらって、一緒に旅行した。

自分は牛肉は食べないので、「牛」の漢字は覚えていた。飲食店に行く時は、まず地図で確認し、それでわからないときに人に最初に日本語で話しかけて、次に英語で会話が続けた。相手の言う、みぎ、ひだり、は聞き取れたが、「ラーメンのレストランどこですか」に対する返事が分からなかった。行きたかったレストラン全部にはたどりつけなかった。漢字に関しては、電車に乗るなどの駅関係の移動には英語の地図があったので、駅名や路線名は問題にならなかったが、飲食店のメニューの漢字は写真がない場合は、他にになにも頼るべきものがないのでお手上げ。提案として、道順を聞くアクティビティはできるだけ新学期早期にするといい。日本人からの返答の聞き取りに取り組む活動があるといい。初級コースは教科書と文法と漢字だけだが、基礎コースは日常生活に取り組む点がいい。

T2 における問題の概要： 春休みに初級3履修のタイ人の友人と六日町の飲み屋に飲みに行った。勘定をする段になって伝票を見ると、頼んでもいない突出しに請求されていて、納得がいかなかったが、そのまま料金を払って店を出た。

インタビューで明らかになったこと： 伝票を見て、突出し一人分につき800円請求してあり、しかも頼んでもいないので戸惑ったが、それがこの店のやり方なのだろうと思って、質問はせずにそのまま払った。実は東京の飲み屋でも同じことがあったのだが、タイではこのようなことがないので、その違いに戸惑った。この問題は特に大きいものではない。クラスでは日本の飲み屋で飲むときは突出しに科料されることを社会言語的知識として伝えるといい。また殆どの地元の飲食店には日本語のメニューしかないから、先輩からの情報の引き継ぎがあるといい。基礎日本語3で生活の漢字の紹介があったが、基礎2から始めてもいい。

IDN1のケース

T1 における問題の概要： 2011年12月ごろ、長岡に友人と行って、帰る段になって浦佐に帰る電車にのるために何番線に行ったらいいか分からなかった。そこにいた日本人に英語話しかけたが、返事が理解できなかった。次に駅員を見つけて「すみません」で会話を切り出して、後は英語で話しかけたが、日本語で返答され分からなかった。英語で話してもだめだと思った時に、切符を見せることを思いついた。駅員に切符を見せると、番線を示してくれて、電車に乗れた。

インタビューで明らかになったこと： 事前管理として、インドネシアの先輩学生に電車の乗り方について聞いたり、本を読んだり、またいつも経験のある友人と一緒に行動するように心がけていた。事中管理として、英語使用をあきらめ、切符を見せるという実質行動に切り替えて目標達成。事後管理としては切符の買い方、電車はどの番線に乗るかを事前にインドネシアの経験豊富な友人に確かめるようになった。

T2 における問題の概要： 髪が伸びてきたので、日本の床屋に散髪に行った。英語で話しかけたが、理容師は”cut”など英語を数語しか解さなかった。それで、「ショート？」などと聞かれたとき、あるいは本人が”medium cut”と言って、床屋はジェスチャーで髪を切る位置を示し、それに対して「長い」「短い」「はい」「いいえ」「だめ」で希望を伝えた。その床屋には留学生がたくさん訪れていたもので、自分の希望の髪型を察してくれた。支払いには「いくらですか」と日本語で言えた。

インタビューで明らかになったこと： 自分より日本語ができないが、日本の床屋を利用したことがあるインドネシアの友人に相談したところ、行けばなんとかなると言われて行った。事前管理として友人の助言を求めたが、それ以外には特になにもしなかった。基礎日本語1のときよりは日本語が上達していたから日本語が使えたと思う。事後管理として、希望の髪型の写真を持っていくようにした。

IDN2

T1 における問題の概要： 冬休みに六日町にスキーに友人と行った。でスキー場経験の豊富なインドネシアの先輩学生が中心となって、自分も少し受け付の人と対応してスキーセットを借りる交渉をした。その際、自分たちは日英を混ぜて話しながら、受け付けの人の日本語を理解しようと努めた。日本語では大事な部分が文末にくるので特に文末に注意を払った。受付の人の日本語はさほど理解できなかったが、要点は分かったし、スキーセットも借りられた。

インタビューで明らかになったこと： 準備は特に何もしなかったが、友人と行くことは他者訂正を期待しての事前管理と考えられる。事中管理としては英語を混ぜること、受け付けの人の話す日本語を自分の習得に結びつけようとしていた。同様の経験を何回か繰り返すうちに、「スキーセット」「大人」「子供」「半日」「一日」の意味が分かるようになった。事後管理として、いつも友人とスキー場に行くようにしていた。

T2 における問題の概要： 春休みにインドネシアの友人と家電量販店に行って、友人が奥さんにデジカメをお土産に買うのを手伝った。友人はメモリーカードは不要でデジカメだけ買いたい旨を店員に英語で伝えたが、店員は英語を解しなかった。友人は店員に「メモリーカードない、ない」と言ったが、店員には伝わらなかった。そこで自分が日本語で「こちら、メモリーカード買いじゃないといっていました」と言って、分かってもらえた。

インタビューで明らかになったこと： 友人のインターアクションの事中に他者として管理に入って、問題解決できた。一般的に基礎日本語の教科書「げんき」は地元周辺の現実に合っていないと思っている。例えば、教科書ではサーフィンだが、地元ならスキーの方が合っているし、買い物に関する表現が少ないと思っている。授業活動の一環として、スーパーに実際に行って買い物をしたり、駅や公共の交通機関でよく見かける漢字語彙を扱うといい。

IDN3

T1における問題の概要： コースに在籍していなかったためなし

T2における問題の概要： 冬休みに東京に行き、ほとんどの場合地下鉄で移動した。料金表示の地図は地名が漢字で書いてあって読めないの、近くの人に英語で聞くが相手が英語を話せない。この問題を解決するため英語版の路線地図上で目的地位を示して、日本人に「チケットはいくらですか」と聞いた。金額を理解できて切符を買うことができた。

インタビューで明らかになったこと： 一たび路線地図の漢字の問題に遭遇した後、予想される切符購入の事前管理として、英語の路線地図を所持し、路線地図に日本語の「チケットはいくらですか」を組み合わせる方略を使った。券売機の上に掲げてある漢字のみの路線地図で現在いる駅は赤字で書いてあることは分かっていた。問題は券売機の上の地図と英語版の路線図は縮尺や図柄、比率が異なるので理解しにくかった。どの番線に行けばいいのかもわかりにくかったが、駅員に英語で、駅員は日本語で「3番」「5番」などというので、数字部分で番線を確認した。それでも日本語で何を言われているのか全部はわからないし、漢字も分からないし、言いたいことを自分の日本語能力に落とし込んで表現することができないという問題が残る。クラスの活動として、母語話者との会話クラスは有用だと思う。交通機関に関するアクティビティがあれば会話クラスでできればいいし、そこでたくさん話せたらいい。

IDN4

T1における問題の概要： 2011年秋学期に小学校英語教育の一環で、留学生数人と数回近隣の小学校を訪問した。英語で発表を行い、児童と交流した。自分の子供の頃を思い出し、児童との交流は楽しかった。英語教員が随伴して、児童との仲立ちをしてくれた。発表する際に知っている単語は時々日本語にして言い直したこともたびたびあった。問題は、児童からの日本語での質問やコメント、自由会話が分からないことであった。しかし、児童は頭がよく、ジェスチャーや絵を使ったりしてコミュニケーションしようとした。日本語の文法理解と会話能力の向上が必要だと感じた。

インタビューで明らかになったこと： 事前管理として、学校を始めて訪問する前に、traditional, house などいくつかの英単語を日本語に翻訳してアイポットに記録しておいた。traditional はインタビュー時に忘れていたが、house の訳語には「宅」「部屋」などがあったのを覚えている。基本的には英語で全部準備した（発表では「これは traditional house です」のように言った）。自分より日本語が上

手はインドネシア人の友人 2 人（初級 1 と基礎 4 を当時履修中）と日本語で自己紹介を練習した時、自分の知らない「申します」を 2 人が使っているの聞き、自分は「～です」で自己紹介をして、2 人の日本語を聞き取ろうとした。

発表後に児童から英語で剣玉で一緒に遊んだり、漢字を書こうと誘われた。インフォーマルで会話をする局面になって日本語で給食を一緒に食べようと誘われたことは理解できたが、食事をしながら日本語で児童から言われたことは分からなかった。訪問が終わってから、友人の一人に初級 1 は役に立つかと聞いたところ、すでに来日前に勉強してきたとの返事を聞き、すごいと思った。

コンビニでの以下の日本語での成功体験がきっかけとなって、学習意欲が高まったし、現在上達していると思っている。

コンビニで

IDN4：これは何ですか。

店員：チキンです。

IDN4：ここはいくらですか。

店員：105 円です。

IDN4 あ、そうですか。これおねがいします。ひとつおねがいします。

クラスではインフォーマルな会話が日本人とできるとよい。

最近初級学生が「僕」と言っていたのを聞いたので、何かと聞くと、インフォーマルな第一人称だと教えてくれた、という事例が示すように日本語の習得に対する意識の高さがうかがわれる学生である。

T2 における問題の概要： 春休みに IDN2, IDN5 らとタクシーで小出にある回転すしに行こうと、浦佐駅前のタクシー会社に行った。応対してくれた人が日本語で長々と何か説明してくれたが、分からなかった。次第に、回転すしなら小出まで行かなくても、もっと近くにあるという旨のことをいっているのだとわかってきた。

インタビューで明らかになったこと：友人二人にお前が一番日本語が上手だから交渉しろと言われた。

IDN4: タクシーがありますか。

受付: はい、あります。何人？

IDN4: nine. 大きいです。

受付: はい、はい、はい。ちょっと待ってください。

という会話の後、受付の人が大きいタクシーの中を示して、Please wait over there.と言われたので、運転手のすぐ後ろの席に座っていると、最初は日本語で長

く説明されて分からなかったが、だんだんと簡単なことばや短い文で言ってくれたので、小出までいなくてももっと近くに回転すしがある旨のことを伝えたがっていることが分かった。もっと近いすしやのことは運転手のジェスチャーで分かった。実は小出ですしを食べて、そこでボーリングもしようかと計画しており、運転手の言っているもっと近いところにある回転すしでは用が足りず、あくまで小出でなくてはならないということを言いたかった。IDN2が「食べた後で、ボーリングします」と日本語で言って、運転手も事情を了解した。

日本語の会話では、キーワードが分かれば、全体として何が起きているのかわかるようになってきている。聞き取りは未だ難しいし、て形を例とする文法は難しいが、インドネシア人の集団で何かあるといつも自分が日本語の交渉の矢面に立たされることが多い。IDN2とは外出時にいつもペアで言語管理を行うことが多い。次はその一例である。

2012年5月にIDN2と駅の立ち食いそばで

IDN4: (ゆっくり歌を歌っていた)

店員: 上手ですね。歌手ですか。

IDN4: («かしゅ»の意味を心の中で考えていた)

IDN2: はい、そうだと思います。こちらは歌手です。

IDN4: いいえ、いいえ、だめです。

日本語のアニメを見て、聞き取りを中心に勉強している。先日もNHKテレビの「忍たま乱太郎」を見ていて、忍者特有の文末表現の「ござるよ」を聞いて、日本人に使ったら、昔の言い方だから使うなと言われた。クラス活動にアニメを取り入れるのはいいかもしれないが、問題もあると思っている。

IDN5

T1における問題の概要: 2011年12月に自分と同じ日本語能力のインドネシア人の友人と長岡にいった。列車の時刻表と番線が分からなかった。

インタビューで明らかになったこと: 長岡に行ったことがある友だちにくっついていき、自分一人ではできないから、切符の払い方、乗る番線はことごとく友だちのするようにした。基礎日本語3の現在でもそうしているし、一人で行くなら、もう一度交通機関、道順関係の日本語を覚えなおさなければならないだろうと思っている。

リスク回避傾向の強い言語管理をする学生である。

クラスは秋以降、旅行する機会はいつでもあるので、秋学期中に公共交通機関を

利用するときの表現が使え、カタカナと漢字の標識が理解でき、アナウンスメントが聞き取れるような活動をしたらいいと思っている。

T2 における問題の概要： 大学の売店で荷物を送るときと、郵便局で送金するときにはいつも会話で苦勞する。

インタビューで明らかになったこと： 売店の人は少し英語が分かるので、英語を使う。郵便局では英文の説明書を読まされる。質問は日本語でできない。来日後の秋学期にはインドネシア人は荷物を送ったり、送金したりすることがよくあるので、これが問題となる。来日前の本国での集中日本語は文法は難しいし、この問題の解決につながるようなものではない。来日後大学からオリエンテーションがあったのかもしれないが、自分の知っている限りではないに等しい。事前管理として、このようなきにはインドネシア人の先輩から事情を聞いておくのが常である。

IDN6

T1 における問題の概要： 冬休みに東京に行った。券売機の駅名には漢字しかなくて、自分は漢字が読めないから、駅内外での移動と電車の切符の購入が大変だった。

この問題を解決するために、東京の地図の英語版とアップルのアイフォンでグーグル検索エンジンを使用した。日本人に話しかけても、早口で何を言っているかわからない。この問題を解決するために、まず繰り返してもらい、それでもわからないときは謝って、「わかりません」というようにしていた。

インタビューで明らかになったこと： 東京では駅で英語の地図をもらうように注意していたが、英語版の地図を置いていない駅もあった。お台場に行くときに、英語で駅員に値段や切符の買い方を尋ねて、用が足りた。一般人に”Do you speak English?”と聞くと、”No”の返答が返ってきたので、日本語に切り替えて、乗り換えするときどこに行ったらいいか尋ねたが、早口で分からなかった。クラスで漢字紹介の活動がもっとあってもいい。

T2 における問題の概要： 六日町の飲食店（月一回ぐらいで今までに4回行ったことがある）で、メニューの中で豚肉が入っていない料理を知りたかった。店員は本人が英語で言ったことが分からなかった。結局メニューの写真を見て決めた。

インタビューで明らかになったこと： 店員に「豚肉だめです」と日本語で伝えられたが、店員からの返答はあまり分からなかったが、「さかな」と「えび」は聞き取れた。その後、店員に見せてもらった写真で注文した。飲食店に行く時は、日本語能力が自分と同じ程度のインドネシア人の友人とだけ行くことがほとんど。また、一度食べて、問題ないと思ったものだけ毎回注文した。

東京にある日本のカレーチェーンに入って「豚肉がありますか」「豚肉じゃないです」

「だめ」などと店員に伝えたところ、”This is no pork”と店員から英語の返答があった。クラスでの日本人との会話は役に立つと思う。できたら中級以上の学習者と日本語で会話するセッションがいいと思う。